

# 地域社会との緊密な連携を築こう

～ 地域の中で 地域に支えられ 地域を築く子どもたちを育てる ～

みよし市立緑丘小学校PTA

## 1 学区及び学校の概要

本学区は、みよし市北部に位置し、豊田市に隣接した3行政区（三好丘緑・三好丘桜・ひばりヶ丘）から成り立っている。一部、隣接している豊田市内小学校区（豊田市大池町）居住の児童も在籍している。多くが戸建ての新興住宅街で核家族世帯が多い。約15年前には1000人を超える児童がいたが急激に減少し、現在は308人の児童が在籍している。

本校は、創立27年目を迎え、地域としても成熟してきている。10年ほど前から児童減少とともにPTAの規模を縮小し、PTA行事も見直しを図ってきた。それとともに、保護者ボランティア、地域ボランティアグループ「みどりっこサポーター」が成長し、老人会とともに学校を支えてくれている。

本年度より緑丘小学校区コミュニティスクールを立ち上げたため、PTA活動と地域との連携の更なる充実を図っている。

## 2 研究のねらい

PTAとしてコミュニティスクールの組織づくりに積極的に関わりながら、家庭、地域、学校の連携をさらに強くする。また、学校規模にあったPTA組織のコンパクト化を進めながら、地域の関係団体と協力し活動の充実を図ることにより、地域社会との更なる緊密な連携を築く。

## 3 研究の方法

研究のねらいをもとに、以下の方法で研究を進めた。

- (1) PTA活動のコンパクト化を図り、家庭、地域が学校教育活動に関わりやすい環境を整える。
- (2) コミュニティスクール等の組織を生かし、地域の関係団体との情報共有の場を設定する。

## 4 研究の実践

### (1) PTA活動のコンパクト化

近年の児童減少に伴い、平成28年度からPTA活動のコンパクト化を徐々に行ってきた。令和2年度に大幅に活動を見直し、役員数や活動内容の精選を行った。現在のPTAの組織は次のとおりである。

#### 緑丘小学校PTA組織（全15名）

<役員>	会長	<地区委員>	桜	3名
(各1名)	副会長		緑	4名
	副会長（女性代表）		ひばり1	1名
	書記		ひばり2	1名
	会計			
	会計監査			



【リユース品の販売】

ピーク時のPTA役員数は30名程いたが、そこから半数以下に減らした。それに伴い、活動内容はPTA会員から意見を募り次のように縮小した。

- ・バザー→体操服等のリユース品の回収・販売のみに縮小
- ・PTA新聞→廃止 ※みどりっこサポーターに引継ぎ
- ・資源回収→アルミ缶回収のみに縮小

同じく令和2年度には縮小したPTA活動を補うために保護者や地域の方が「みどりっこサポーター」という学校支援ボランティアグループを立ち上げてくださり、校地の草刈り、校内花壇の整備、家庭科や図画工作科の授業補助、PTA新聞の後継広報誌の作成、休み時間や水泳授業の見守り、アルミ缶回収の補助などの活動を行っている。校地の草刈りには地域の老人会も参加し、PTA会員にもメールで知らせ、共同開催としている。また、開校当初から活動している読み聞かせボランティア「ミルクィポケット」も朝の読み聞かせと昼の放送を毎月1回ずつ行っている。

## (2) 地域の関係団体との情報共有

児童減少に伴い、PTAとしての大きな課題が登校時の交通当番の人数が足りないということであった。3地区の交通当番の取り決めが少しずつ違っていたのでPTA学校委員会で情報共有し、地区の実情に合わせながら、地区間の差を減らして行っている。また、PTAだけでは対応が難しい地区についてはコミュニティスクールの会議や打ち合わせ、家庭教育推進協議会、校区委員会等で協力を呼び掛けた。

## 5 研究の考察

- (1) PTA役員組織と活動内容をコンパクト化したことで、PTAとして「やらなければいけない」というプレッシャーが減り、役員に立候補する人も少し増えた。資源回収は一時、アルミ缶回収のみに縮小したが、児童会の活動と協力して実施するために新聞紙と雑誌の回収をリユース品の回収・販売時と同時に行うことで再開することができた。
- (2) PTAから地域の方に登校時の交通当番に立つ人が不足していることを伝えたところ、「みどりっこ応援隊」として新たなボランティア団体が立ち上がり、横断歩道の交通当番を手伝っていただけになった。また、みどりっこサポーターやミルクィポケットの存在を知り、各会議の委員もボランティアとして登録していただけるようになった。情報共有することでボランティアとして子どもたちと関わる人が増えている。

## 6 成果と今後の課題

研究の成果としては、PTA活動をコンパクト化し、本当に必要な活動だけに絞ったことでよりその活動に力が注げるようになった。PTA会員もみどりっこサポーターやミルクィポケットに登録し、「できることをできるだけ」の力を貸してくださっている。学校やPTAの困りごとを地域の方が参加する会議で伝えると「全然知らなかった」「協力したい人はいるのでどんどん教えてほしい」という声が多く聞こえた。地域の方に学校のことを知っていただく機会を意識的に増やすことで、学校の教育活動に関わっていただけるボランティアが増えてきた。

課題としては、地域の方が学校に入ってきてくださる機会は格段に増えたが、学校が地域に出ていくということはまだ発展途上である。学校評価でも「子どもたちと一緒に活動したい」という声が多く上がっているため、PTAとしても子どもたちとともに地域と関わる機会をさらに増やし、地域に愛され、地域を築く子どもを育てていきたい。